

## FUKUUZU タイムス VOL.4

2022 年度 1 次隊

派遣国:ウズベキスタン

職種:ラグビー

氏名:森谷理央



### ●近況報告

お久しぶりです。前回の投稿からだいぶ月日が経ってしまいました。今になって、気付いたのですが、本来の協力隊活動である、現地のラグビーについてお伝えしていなかったのが、今回は私の所属チームの様子をお伝えしようと思います。実際のところ、毎日多くの事が起こっており、全てをお伝えするのが紙面の都合上、相当困難であるというのが正直なところでありました。まあ、ある意味、それだけ充実しているということなのかもしれませんが…。というわけで、今回は私のチームの様子をほんの少しだけご紹介させていただきます。

前回お伝えした通り、ウズベキスタンは目下、「チッラ」と呼ばれる酷暑期です。8月に入り、ようやく気温が落ち着いてきて、40 度を超える日は少なくなってきました(とは言っても、国民の混乱を避けるために、政府が天気予報しばしば改竄するので、実際の気温は己の感覚で計るしかないのですが…)。

先月は酷暑期の真っ只中でしたので、気温が 50 度を超える日もあり、平均気温としては、45 度前後ではなかったかと記憶しております。此方の天気予報では、連日 39 度と報道されていましたが、どう考えてもそれはないと、現地の方が言うておりました。ラグビーの練習の方はどうなるのかなと思っておりましたが、何故かこのような時に張り切り出すのがウズベク人。同僚のコーチが、50 度を超える暑さの中でも普段通り、いや、普段以上の強度の練習をするのだと、やたら発奮してしまい、時には 4 時間もの長時間練習を取行しました…。



↑人数が少ない為、筆者自身も練習の全メニューに参加している。(写真左青ジャージー)

6月の半ばは、私自身、此方の暑さに適応できませんでしたが、体調を崩して活動に行けないとなると、只でさえ人数の少ないチームですので、練習が成り立たなくなる恐れがあり、活動の時間以外にも、敢えて暑い時間帯に自主練をし、暑さに適応するように努めました。

それが奏功し、私自身、練習中に熱中症で離脱するということは今のところはありませんが、選手たちが心配でした。というのも、此方に来て驚いたのですが、ウズベク人は、暑さというものに対して、あまり耐性がないということです。酷暑、酷寒の国ですので、厳しい天候など、どこ吹く風、という気質なのかと思いきや、厳しい天候の下では、外出するなんて言語道断という考えの方が多く、本当に意外でした。暑さの他、少量の雨でさえ、過敏に反応します。昨秋、小雨が降って来ただけで、U23の練習が中止になった際には、正直呆然としてしまいました。

現に、ウズベキスタン代表チームは、夏季は、日本でいう菅平高原のような高地で長期間の合宿を行っています。その一方、酷暑期に敢えて猛練習を課す私のチームの同僚コーチは、国内では珍しいタイフスカも知れません。



↑この日は同クラブ出身で、現在 U23 代表に所属する選手が手伝いに来てくれた。彼とは昨年、代表チームにて共にプレーさせてもらったが、非常に卓越した身体能力を持っている。184 cm、90 kgという体格にも恵まれている。(画面右端)

しかし、我がチームの選手達も自己防衛策を心得ていて、酷暑期に入った途端、「サボリ」が大量に増えてしまい、練習に来る選手が最終的に2人になってしまいました…。同僚コーチは憤慨していましたが、命には替えられないので、英断を下した選手達には賛美を送りたいです。

そして、そうこうしているうちに今度は同僚コーチも暑さにやられてしまい、7月は殆ど練習が中止に。結局、外国人の私だけが生き残るというよくわからない状況になってしまいました…(頑丈な身体に産んでくれた親には、今更ながら感謝しております)。

こうになってしまうのなら、最初から計画性、効率性を考慮して練習を組み立てつつ、選手たちの人心掌握を図ればいいのではないかと、思うのですが、「計画、準備、緻密、予測」といったことが苦手なのがウズベキスタンの気質なので、今更目くじらを立てても仕方ありません。兎も角、誰一人命を落とさなくて良かったと、その一言に尽きます。

9月にはフランスにおいて、ラグビーワールドカップが行われる予定で、日本国内においても、ラグビーのメテア露出は以前と比較すると増えてきたかと思います。私自身も今から本当に楽しみでなりません。しかし、ウズベキスタンのラグビー関係者、選手の中で、今年のワールドカップを認知している方は残念ながら少ないようで、個人的には寂しいような、悲しいような心境です。しかし、それがこの国のラグビーを取り巻く現状を物語っているような気がしております。

任期もいつの間にやら折り返しを過ぎており、未だに前途多難な状況ではありますが、ウズベキスタンの方々とラグビーに対して、真摯に向き合っていきたいと、気持ちを刷新した今日この頃であります。



↑練習後、チームの選手、同僚コーチ陣との1枚。